

●2020年1月JPA定例セミナーのご案内

キャリアコンサルタントが伝授する！ 実現する目標の立て方

日時：**1月11日**日曜日 13時30分～16時15分
受講料：JPA会員 3,000円 / 非会員 4,000円

年の初めに現実的で無理のない計画の立て方、バリアの取り除き方のコツを
キャリアコンサルタントがお伝えします。

ビジネスやプライベートで目標達成や自己実現に活用しませんか？

詳しい内容やお申込みは[こちら](#)からどうぞ！

●プレゼン認定セミナーのご案内

ビジュアルプレゼンテーション講座 ～デキる資料作成術～

より多くの方に受講
いただけるよう、
期間限定で半額と
いたしました！

日時：**1月25日(土)、26日(日)** 2日間
13時～16時30分

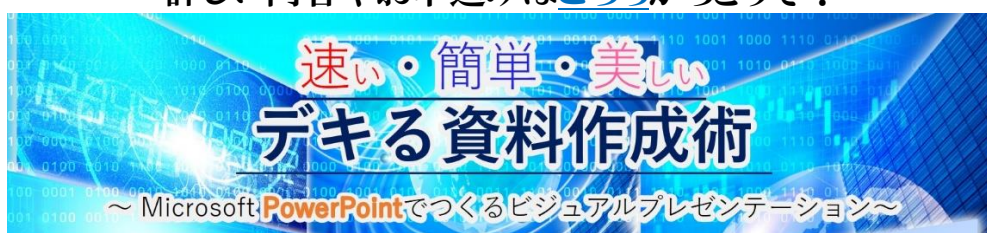
受講料：JPA会員 ~~6万円~~ / 非会員 ~~8万円~~ / 再受講 ~~4万~~
JPA会員 **3万円** / 非会員 **4万円** / 再受講 **2万**

成功に導くスライド作りのポイントを実際に操作しながらお伝えいたします。

スライドが変われば説得力も大幅に変わります。

少人数制なので受講者の疑問や質問に応じながら進めてまいります。

詳しい内容やお申込みは[こちら](#)からどうぞ！



●理事長からのプレゼント

(5回シリーズ、その①)

死んだ勉強ではなく、生き学問を学べ

高野 文夫 NPO日本プレゼンテーション協会理事長

1、生き学問の秘密は呼吸にある

私が尊敬する人は幕末の英傑「勝海舟」です。

勝海舟の自伝「氷川清話」は私の愛読書です。勝海舟は以下の言葉を言い残しています。

「世間は生きている。理屈は死んでいる。」

人というものは、勢いに乗る時と、どうも勢いの出ない時があります。自分に勢いがついているときは、どんどん前に出てゆくべきで、相手に勢いがついているときはすらっと横に交わすべきなのです。

この呼吸が生き学問であり、理屈ではどうしてもとらえどころがなく、武術の稽古などで涵養できます。

世界各国、民族の気質に合わせて固有の武術や格闘技があります。

とりわけ、日本と中国の武術が圧倒的に世界に広がって、人気があるのはなぜだろうか？

私は太極拳を30年続けていますが、中国武術の特徴は、その呼吸と氣にあります。

空手も50年近くやってきましたが、元は唐

手と呼ばれていただけあって中国武術から派生し分かれたものです。

人は宇宙の一部ですが、氣というエネルギーを媒体として呼吸を通じて繋がっているのです。

そしてそのエネルギーの通り道として、人体に関する構造研究が、現代医学の影響を受けて発達しています。

私の空手の元監督さんは、「人体医学学会」という体育と医学が合流した学会のキーマンでもあります。

中国系武術の根本は、あくまでも自然であることを重要視し、太極拳などは、揚子江の悠然とした大河の流れと、自らの動きを同一化することを理想としています。

一方、日本の武術の特徴は、なんと言っても相手（敵）のとらえ方が中国武術と違っています。それは相手と自分の関係「間や間合い」を最重要視するのです。

人と人との関係をいかにコントロールするかがポイントですから正に日本武術はコミュニケーション技術そのものと言えるでしょう。

例えば「柔よく剛を制す」という言葉があ

りますが、元はといえば中国の老子の言葉なのですが、今や中国ではなく日本の専売特許の様になっています。柔道の「巴投げ」が典型的な技ですが、

力強い大男を誘い込んで、自分は投げられたかのように持って行き、相手の力を利用して逆に投げ飛ばすのです。

これも相手の呼吸を読んで、自分の呼吸を相手に合わせて呼吸を同化させることによって投げる技です。

2、力があっても基盤が無ければ ゼロに等しい

武術に強い体を造ろうと思ったら、私はボディービルは、ほどほどにしておくように勧めています。ボディービルで作りあげた体は見るからに筋肉隆々で強そうに見えますが、実はもろくて動きが鈍くなるのです。

しかし、フルコンタクトの空手やK1の様に技を当て合って、それでも立っていなければ負けてしまうような競技武術ではある程度はボディービルは必要でしょう。

筋肉を増やしたり、体重を増やすのは相撲の様にぶつかる必要のある競技にはとても大切ですが、それも程度ものです。

かつてハワイから来た相撲取りで小錦という化け物の様に大型の関取がいましたが、運動機能が悪く、ころころと投げられていましたね。

要は体そのものを使いこなす基盤に欠けると体重や筋肉量は負の条件になってしまうのです。

力を電気に例えれば、筋肉や体は電線と言えます。電線そのものが目的ではないのです。

ところがそれがどうも錯覚されて、電線の見かけや色合いや重量などの外見的なところに関心がゆきやすく、電気そのものの通りの良さが無いがしろにされてしまうのです。

これを会社や団体に例えれば、組織の形態とか大きさ、その内外に対する働きとなるでしょう。

一方力にはスタミナという概念もあります。人や組織が持っている潜在的な能力を有機的に動かせるかどうか問われるのです。

大きすぎたり多彩過ぎると調整がつかなくなり、恐竜時代の恐竜になってしまいかねない。

恐竜は余りにも大きいがために、自分の頭ですべての部分をコントロールできなくなったと言われていますよね。

また脳の命令が末端までスピーディーに届かなくなったとも言われています。

人間も然りで、あまりにも太って大男になると自らの体力や体重を持て余すことになるのです。筋肉に戻って考えると、大地とのイキキした関係を保つことが大切で、その為には何よりもしなやかで柔らかく動くことは必要です。

3、「世間は生きている、 理屈は死んでいる」 なる勝海舟の座右の銘

「世の中は、時々刻々変転極まりない。こういう世界に処して、万事、小理屈をもって、これに応じようとしても、それはとても及ばない」これも、彼が社会の実相を重んじて虚相を軽んじた、という人生態度の表われだと思えます。

彼は、とにかく机の上の小理屈が嫌いだった。まず行ないである。彼が、自分の考えに近い、と見た人物が二人いる。一人は西郷隆盛であり、もう一人は横井小楠である。

この、「世間は生きている。理屈は死んでいる」という言葉を口にした時に、彼が例に引いたのは横井小楠であった。そういう眼識があったのは小楠以外ないと言い切る。

このように、死んだ学問よりも生きた世間を重視するという考えをもっていた勝は、よく町を歩いた。

これは、長崎の海軍伝習所にいた頃、オランダの教官から教えられたことである。

「時間があったら、市中を散歩して、どんなことでも見て覚えておけ。いつかは必ず役に立つ。兵学をする人はもちろん、政治家にも、これは大切なことだ」

教官のこの教えに従って、勝は、勉学の暇に必ず長崎の市中を歩いた。それもステッキの頭に磁石をつけて、方角を計りながら歩いた。

だから、彼は、長崎の市中で米屋がどこの横町にあるか、豆腐屋はどこの角にあるか、全部知っていた。

この経験を、彼は例の江戸開城の時にも生かした。それまでに、彼は江戸中を歩き回っていた。日本橋、京橋などの目抜き通りや、芝、下谷の貧乏町、あるいは本所深川の場末も、全部足で覚えていた。

江戸開城の時に、彼が頼りにしたのは、武士ではなかった。

町人達である。つまり、庶民である。それも、新門辰五郎や、清水次郎長などのやくざ、あるいは、吉原遊郭の経営者、芸者、料理屋のおかみ、踊りの師匠、消防を担当していた町火消などを動員し、江戸市中の鎮静にあたった。

いざという時に備えて、房総方面から数百隻の船を用意し、官軍が江戸に攻めこんだ時は、江戸市民をこれらの船で逃がす用意をしていた。

市民を逃がした後、魚市場の連中に頼んで、江戸を焼き払うつもりでいた。

焦土作戦を敢行して官軍を迎えようとしたのである。これだけ決意をして、官軍の代表西郷吉之助（隆盛）と談判したのだ。

彼が自分の補佐として重視していたのは江戸城の旗本や御家人ではなく、完全に江戸市民であった。

それは、彼が終始暇を見つけて、江戸市中を歩き回り、町だけでなく、人間の実態を見ていたからである。

役立つ人間と、そうでない人間とを、それまでに鋭く見抜き整理していたのである。

次は2020年1月15日号になります。